

(別紙様式)

(A3判横)

平成30年度学校自己評価システムシート (県立熊谷特別支援学校)

目指す学校像	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行い、可能性を伸ばし、保護者・地域から信頼される学校
--------	---

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	1 児童生徒一人一人を大切にし、成長発達を促す学習活動の充実 2 地域とつながり、チームワークを生かした学校づくりの推進 3 健康で安心安全に過ごせる教育環境の整備
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価		
年度目標							年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	平成31年2月7日
1	○保護者とはより緊密な連携を図って指導・支援にあたり、教育活動の質をより上げていく必要がある。	○育てたい力を明らかにした授業の実践	①「課題関連図」や指導グループ会等とおして、児童生徒の育てたい力や指導内容・指導方法を明らかにして授業を実施する。 ②個別面談やアセスメントにより児童生徒の実態を的確に捉え、教育支援プランA・Bに反映させて効果的な活用を図る。	①児童生徒の育てたい力を明らかにして授業を実施し、児童生徒の発達を促せたか。 ②教育支援プランが指導・支援に十分に生かされたか。(保護者・教職員アンケートの活用)	「課題関連図」や教員間の話し合いをとおして、児童生徒の実態を多面的多角的に捉え、育てたい力を明確にして授業を行い、発達を促すことができた。教員と保護者で教育支援プランを策定活用し指導支援に生かされた。(保護者アンケート、満足・やや満足が98%)	A	「課題関連図」の活用を図ったり、教員間での共通理解をさらに深めて児童生徒の教育的ニーズを的確に把握し、課題や指導内容を明らかにして授業を実施し、成長・発達を促せるようにしていく。個別面談の時期や回数工夫し、教員と保護者で教育支援プランの見直しを行い、指導支援に結び付けるようにする。	児童生徒や保護者の思い、将来像、課題や具体的な手立てなどを教員間や保護者と十分に共有して教育活動を展開してもらいたい。担任間でしっかりと引継ぎを行い、児童生徒について理解した上で指導にあたってもらいたい。	児童生徒へは本物を見ること、生の音楽を聴くことなど、いろいろな体験をすることが大切である。
	○児童生徒の成長に応じてきめ細かく丁寧に実態把握し、教育活動に生かしていく必要がある。	○児童生徒が「わかり、できる授業」づくり	①児童生徒の主体性を踏まえ、教材の開発や共有教材の活用による授業の質の向上を図る。	①児童生徒が授業の楽しさを実感し、学力やコミュニケーション能力の向上が図れたか。(保護者・教職員アンケートの活用)	児童生徒の実態に応じて教材等を工夫し、わかりやすい授業を実践した。(保護者アンケート、満足・やや満足が92%)	B	個々の実態に応じた教材の工夫や日々の授業を毎時間ごと振り返るなどして授業改善を図り、さらに児童生徒が主体的に学習に取り組めるようにしていく。		
	○児童生徒にとって自立活動における専門性の高い指導や教員のICT活用能力を高めていく必要がある。	○自立活動とICTの指導の充実	①自立活動において、児童生徒一人一人の課題に応じた身体運動、心理的な安定やコミュニケーションに視点を当てた学習を展開する。 ②研修会や校内研修、年次研修などを充実させ、授業改善につなげていく。ICTの活用における指導力の向上に向けた全体研修や希望研修等の実施。	①児童生徒一人一人のニーズに応じた自立活動の指導を実施することができたか。 ②教員の自立活動の指導やICTの活用能力が向上し、児童生徒の課題に応じて効果的な活用が図れたか。	自立活動担当との連携により、個々の課題に応じた身体や認知面、コミュニケーションなどの一人一人に応じた具体的な学習を行うことができたiPadやプロジェクターなどの情報機器等を効果的に活用して、児童生徒の学習意欲や学習効果を高めることができた。	A	自立活動担当との連携を一層強化し、児童生徒の課題や指導内容等を共有して取り組んでいく。情報機器の積極的な活用と指導力の向上を図り、ICT教育を充実させていく。		
2	○HPなどにおいては保護者・地域が望んでいるよりタイムリーな情報の提供をする必要がある。	○地域への情報発信と開かれた学校づくりの推進	①HPや学校公開等において、児童生徒の学習活動の様子や教育相談、入学相談、入学選考等の情報を積極的に提供する。	①教育活動の様子や学校公開・教育相談、就学相談等の情報発信を適切に行い、適正な就学や学校の教育活動の理解に役立てられたか。	教育相談等の必要な情報提供や各学部の行事や児童生徒の活動の様子などのHPへのアップなどを積極的に行った。	A	さらに多くの教育活動の様子をHPにアップしたり、地域等が求めている教育相談等の情報を提供できるようにする。	保護者・地域のニーズに合った情報を提供することが大切である。	iPadなどの情報機器は、多くの情報を得たり、コミュニケーションツールになったりするなど幅広く活用できることから、台数を増やすなどしてさらに広げたらよい。
	○年々、地域・保護者からの支援の要請が増加しており、地域における特別支援教育の推進拠点としての役割を更に果たしていく必要がある。	○センター的機能による地域の特別支援教育の推進	①コーディネーターや自立活動担当を中心に相談支援、地域支援の充実を図る。	①地域のニーズに応じて適切な支援が実施できたか。(該当者による聞き取りやアンケートの活用)	コーディネーターや自立活動担当を中心に、地域の小中学校等に向き、相談や支援、研修の講師等を行うなど、センター的な役割を積極的に果たし、昨年度の2倍のケースに対応した。	A	校外支援については、小学校等からのニーズがあることから今後も積極的に行っていけるようにしていく。		
	○保護者からの意見を反映させ、支援籍学習等をより充実させる必要がある。	○多様な学びの場を提供するインクルーシブ教育の推進	①児童生徒や保護者地域、ニーズを踏まえて、計画的に「支援籍学習」や「交流及び共同学習」を進める。	①児童生徒や保護者、地域の期待に応えた「支援籍学習」や「交流及び共同学習」が実施できたか。	支援籍学習では、相手校との情報を十分に交換して活動を充実させるとともに、交流でも小中学校や地域の人のよりよいかかわりができた。通常学級支援籍20名 特別支援学校支援籍5名	B	支援籍学習の拡充や交流でのより系統的で発展的な計画・実施ができるようにしていく必要がある。		
3	○年度が替わり担当が代わっても継続して再調理をおこなえるように引き継ぎを丁寧に行う必要がある。	○安全な給食の提供と食生活を豊かにする摂食指導の充実	①給食室での再調理、再々調理の実施及びアレルギー対応食の確実な提供を行う。 ②自立活動担当や給食部を中心とした研修や日々の担任間による情報交換等で摂食に関する指導力の向上を図る。	①再調理、再々調理が確実に行われたか。また、アレルギー事故等が0件であったか。 ②摂食指導の研修や担任間による情報交換・情報共有が積極的に行われたか。	児童生徒の実態に合った再調理、再々調理が提供でき、アレルギー事故も0件であった。教員間の情報交換や研修を実施し、摂食指導に関する指導力の向上に取り組んだ。	A	緊急時シミュレーションを実施するとともに、アレルギー個別緊急時対応マニュアルを必要に応じて見直していく。摂食指導に関しての研修や情報交換を充実させ、安全安心な給食指導ができるようにする。	児童生徒にとって大切な給食を、今後も安全で、楽しく、豊かなものとなるようにしていってもらいたい。	
	○スロープを使わない避難方法など検討やPTAと協力した非常持ち出し袋の活用とそれを使った避難訓練にも取り組む必要がある。	○緊急災害時等における組織的な体制の整備	①引き渡し訓練や、より実践的な避難訓練による大規模災害対策。 ②大規模災害を想定した消防計画や防災マニュアルの見直し。 ③緊急時の対応の研修や迅速適切かつ組織的な訓練の実施。	①より実際のかつ実践的な訓練が実施できたか。 ②計画やマニュアルを見直し、職員への周知徹底を図れたか。 ③教職員が研修や訓練を通して役割分担や動きの確認ができたか。	地震時の効果音等を用いて、緊張感のある避難訓練を行った。平成30年度版防災マニュアルを作成し、教職員への周知が図れた。事前に保などの役割分担や動きを明らかにして取り組めた。	B	緊急災害時におけるより実際的な引き渡し訓練の計画・実施や避難訓練等を行っていく。地域の福祉避難所として、地域と連携した対応について検討していく必要がある。		
	○さらにチームとしての安全な医療的ケア体制と継続的な担当教員の育成が必要である。	○安全・安心な医療的ケアの実施	①自立活動の観点を踏まえ、担任・看護教員・養護教諭・担当教員のチームでの安全な医療的ケアを実施する。 ②医療的ケア担当教員の計画的な育成。 ③ヒヤリハット報告の蓄積やその分析や情報共有をとおして事故を未然に防ぐ。	①自立活動の観点を踏まえチームで児童生徒に安全・安心な医療的ケアを実施できたか。 ②医療的ケア担当教員を育成することができたか。 ③ヒヤリハット報告の蓄積・分析・評価により、職員の意識を高め、事故を未然に防げたか。	看護教員・担当教員・養護教諭担任で連携し、児童生徒一人一人に応じた安全安心な医療的ケアが実施できた。6名の担当教員を育成した。報告をして対応策を共有することで、ヒヤリハット報告が減少した。	A	さらに安心・安全な医療的ケアができるよう、医療的ケア検討委員会等での児童生徒の情報交換等を密にするともに、看護教員・養護教諭・担当教員・担任等の協力・連携体制を強化し担当教員の計画的な育成が必要である。		

実施日	平成31年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	児童生徒や保護者の思い、将来像、課題や具体的な手立てなどを教員間や保護者と十分に共有して教育活動を展開してもらいたい。担任間でしっかりと引継ぎを行い、児童生徒について理解した上で指導にあたってもらいたい。
	児童生徒へは本物を見ること、生の音楽を聴くことなど、いろいろな体験をすることが大切である。
	iPadなどの情報機器は、多くの情報を得たり、コミュニケーションツールになったりするなど幅広く活用できることから、台数を増やすなどしてさらに広げたらよい。
	保護者・地域のニーズに合った情報を提供することが大切である。
	コーディネーターが幼・保・小中高などでかかわり、活躍していることをよく聞く。引き続き期待・要望に応え対応してもらいたい。
	支援籍学習や交流及び共同学習については、より充実したものとなるよう取り組んでもらいたい。
	児童生徒にとって大切な給食を、今後も安全で、楽しく、豊かなものとなるようにしていってもらいたい。
	緊急時における2階からの避難については、より迅速かつ安全に行える方法を検討していく必要があると考える。
	引き続き、安心・安全な医療的ケアを行ってもらいたい。

